



一週間の東京旅、一日さで東大医学部を卒業目は東京ステーションホテル、陸軍軍医となる。そし泊まつたが、二日目してドイツに留学、帰国と三日目は美術館などが集中する上野に宿を移動する。泊まつたホテルは森鷗外ゆかりの「水月ホテル鷗外荘」、上野動物園と道を挟んだ所にあつた。

夏目漱石と並ぶ明治の文豪、森鷗外が生まれたのは一八六二年、石見の国、今島根県津和野町である。幼少時代から学業優秀、神童と呼ばれる。十歳の時、家族とともに東京に移り住む。(生まれた家は今も鷗外記念館とともに津和野にある)

父親は藩の御典医で、鷗外は十九歳八ヶ月の若

夏目漱石と並ぶ明治の文豪、森鷗外が生まれたのは一八六二年、石見の国、今島根県津和野町である。幼少時代から学業優秀、神童と呼ばれる。十歳の時、家族とともに東京に移り住む。(生まれた家は今も鷗外記念館とともに津和野にある)

父親は藩の御典医で、鷗外は十九歳八ヶ月の若

森鷗外ゆかりのホテル

一週間の東京旅④

一週間の東京旅、一日さで東大医学部を卒業目は東京ステーションホテル、陸軍軍医となる。そし泊まつたが、二日目してドイツに留学、帰国

と三日目は美術館などが集中する上野に宿を移動する。泊まつたホテルは森鷗外ゆかりの「水月ホテル鷗外荘」、上野動物園と道を挟んだ所にあつた。

その時住んだ家が、今

回泊まつた「水月ホテル鷗外荘」である。実はこの家は妻の実家の持ち家

母影（おもかげ）を執筆した。

そのことでこの家は有

名になり、後に売りに出

された時、水月ホテルのオーナーが買い取る。そ

してホテルの一角に当時のままの住居が保存されて

いる。「舞姫」を執筆した

「舞姫の間」や、中庭には

「舞姫の碑」と「於母影の

碑」が建立されている。

ホテルでの朝食は新館

の持ち家だったと最初に書いたが、この結婚は二年と続かず、離別後、鷗

外は文京区千駄木に住む。二階の書斎から東京湾が遙かに見えたので「観潮楼」と名

付け、六十歳で亡くなるまで住んだ。

父は藩の御典医で、

鷗外は十九歳八ヶ月の若

父は藩の御典医で、

鷗外は十九歳八ヶ月の若



藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

の食事処「沙羅の木」で食べる。その時、津和野力トリック教会前

前の土産品店兼食事処の名前が「沙羅の木」で出された。沙羅の木は鷗外と関係があるのではないかと

帰宅後、調べる。

やはり関係があつた。鷗外は

詩も書いており詩歌集の最初の詩が「沙羅の木」である。

府川石（ねぶかわいし）の根木が植えられ、七月ごろ、

「褐色（かちいろ）」の根羅（ねぶかわいし）でここで「舞姫」や「於母影（おもかげ）」を執筆した。

「褐色（かちいろ）」の根羅（ねぶかわいし）

で、「褐色（かちいろ）」の根羅（ねぶかわいし）



「舞姫の間」

次回の上京の際にはぜひ訪れたいと思っている。鷗外は一九二二年（大正十一年）に亡くなつたが、遺書に「余ハ石見人、森林太郎トシテ死セント欲ス」とあつた。数々の名作を残し、勲一等旭日大綬章まで受けながら、生

まれた時の名前で死にた

れる。津和野にある墓に

は「森林太郎の墓」との

いと言つたことに心を引か

れる。津和野にある墓に

は「森林太郎の墓」との

いと言つたことに心を引か